

公民1 くらしの変化—解説—

1960年代の公団住宅

この写真は、高度経済成長期（1962 - 昭和37 - 年）につくられた日本住宅公団（現、住宅・都市整備公団）の2DKスタイルの住居の復元展示（松戸市立博物館）である。昭和30年代における都市勤労者層にとって、都市近郊のベッドタウンに建設された「団地」と呼ばれる集合住宅に住むことが夢でもあった。今では当たり前となっているが、食寝分離のための台所と食堂を兼ねたDKの採用、ステンレスの流し台、シリンダー錠、浴室などは、当時、新しい居住スタイルの提案であった。

鉄筋コンクリート造りの耐火建築で、プライバシーも確保されたこの住宅内部をのぞくと、ダイニングテーブルや椅子、いわゆる「三種の神器」の一つである冷蔵庫の上には、電気炊飯器、ジューサー、奥の居間には白黒テレビ、電気扇風機、ソファなども置かれている。6畳の部屋の中に、ステレオ、本棚、応接セットなどが配置されており、当時の団地生活をしのぶことができる。

★授業での使いかた

現代日本の発展とくらしの変化についての学習では、わたしたちが今くらししている生活と、およそ50年前の生活との比較を通して、生活環境の違いを気づかせることにねらいがある。年表で時間を追いながら、家庭用品の機械化・自動化の過程や「三種の神器」の説明などを行い、この写真の前後をふり返らせることで、くらしの変化に気づかせたい。

生徒へのアプローチ例—こんな発問が効果的！

- あなたが現在、住んでいる家の中と、どのようなところがちがいますか。
- あなたが現在、住んでいる家と比べて、あるものと無いものをあげてみましょう。
- あなたが現在、住んでいる家と比べて、こんなものがあつたらもっと便利になると思うものをあげてみましょう。
- この部屋と、あなたが現在、住んでいる家とどちらが住みやすいか比べてみましょう。また、その理由を考えてみましょう。